

# 高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日：2010年 5月 3日

## 1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	たまあじさいの会
連絡先・所属など	濱田光一 ko_hama@fg8.so-net.ne.jp
調査研究・研修のテーマ	日の出町ごみ焼却灰のエコセメント化工場の環境影響調査

## 2. 調査研究・研修結果の概要

11年目になる私たちの調査・監視活動は、試行錯誤を重ねながら取り組んできた。

調査活動は、処分場やエコセメント工場の周辺環境への影響を大気・土壌・水の分析調査、植物・野鳥・水生昆虫などの生態調査と記録を行っている。

科学的な調査活動に取り組むために多くの専門家や研究者の協力を得ながら取り組んできたが、大学に在籍する研究者でここ数年定年退官を迎える方が何人かおり以前のように研究室を利用したの分析などが難しくなり、分析専門機関に委託調査を発注することになり始めた。

学習、交流などの活動では、環境問題の根源にある日本の社会の問題やゴミ行政など大きな視点からの問題や現状の学習に取り組んだ。いくつかのゴミ処分場問題の発生している地域での報告や交流などの取り組みでは、日の出の問題点、調査活動の内容、私たちが得た教訓などを伝えた。

調査活動全体を通して、環境指標としての大気・土壌・水の際立つた汚染の分析数値は現れなかったが、いくつかのデータが、自然界値ではあり得ない数値を示し始めていることも確認できた。植物・野鳥・水生昆虫などの実態調査では、様々な異変の実態が見られ確認された。汚染の「微量・長期・複合」という累積的な現在の公害の様相が、実態調査から見られた。

また、私たちが調査のためエコセメント工場周辺を歩く時、しばしば山間地としてはあり得ない異臭や刺激臭を感じることもある。本格稼働以来4年近く、点検、修理期間を除く1日24時間、休むことなく有害な物質を排気しているエコセメント工場によって、確実に周辺環境汚染への影響が出ていることを感じる。

今後、まだ長期間の操業が予定されており、その累積的汚染は計り知れないものになることを調査活動から実感している。

## 3. 調査研究・研修の経過

### 1) 調査活動

2006年から稼働したエコセメント工場と、1984年以来25年間に亘り、東京都三多摩地域400万人から排出されるゴミの、巨大な二つの最終埋立地を発生源とする環境汚染の実態を、空気・土・水とそこに生存する植物・野鳥・水生昆虫を対象に、継続調査している。

- ・ 野鳥調査 毎月 年11回実施 (天候不順で1回中止) 43名参加  
日本野鳥の会員の協力同行により、午前の時間帯に馬引き沢及び尾根道を歩きラインセンサス法で野鳥の種と個体数の確認調査  
<工場周辺では、熱・音・臭気の影響か種も個体数も減少している>
- ・ 植物調査 四季毎 年4回実施 21名参加  
馬引き沢及び尾根道での植物の実態観察調査  
エコセメント工場直近の尾根道でコデラート法(5mx5mの20マス)による樹木と林床調査  
<排気される有害ガスや熱による周辺樹木の葉の壊死や異変、胴吹きが増加している>

- ・ 水生昆虫、水質調査 四季毎 年3回実施(増水で1回中止) 16名参加  
 処分場・エコセメント工場周辺の三河川とバックグラウンド一河川の4定点での水生昆虫の種と個体数の実態調査、水温・電気伝導度・PH・NO<sub>2</sub>・CODの水質調査  
 <処分場から排水される河川の汚れと水生昆虫の減少が顕著である>
- ・ 市民による水質一斉調査 11/3実施 24名参加  
 多摩地区の市民に呼びかけ処分場・エコセメント工場周辺の沢11地点の滲出水を採取して、専門講師による地下水汚染のセミナー後、電気伝導度と塩化物イオンを測定  
 <処分場から多摩川水系への地下水汚染が始まっていることが疑われる>
- ・ 水質分析継続調査 11/2.3 採水 専門機関での水質分析委託  
 谷戸沢処分場、二ツ塚処分場周辺6地点でのCOD-Mn、カルシウム、重炭酸イオン、鉛、鉛(溶解性)、リン酸性リンの六項目を専門機関へ分析委託  
 <処分場からの排水が流れ込む河川は、水生昆虫の種と個体数が少なく、電気伝導度とCODの数値が高くなっている。また、処分場周辺の地下水の汚染が広範囲にわたり悪化していることが伺える>
- ・ 土壌分析調査 5/15.1/8の二回土壌採取 専門機関での土壌分析委託  
 二ツ塚処分場・エコセメント工場周辺の重金属(5地点のカドミウム、鉛、砒素、銅、亜鉛、クロム、アンチモン、ニッケル)、ダイオキシン(4地点と2地点)の分析調査  
 今年度はダイオキシンを2回(そのうち一度は二調査機関のクロスチェック)実施。<処分場隣接の土壌から48~33(pg-teq/g)と自然界ではあり得ない調査値が測定され、工場、処分場の影響と考えられる>。  
 5年目の土壌重金属類の分析調査は、今まで大学の研究者の協力より実施していたが退官により不可能となり、民間の調査機関に委託した。
- ・ 雨水分析調査 5/25~6/17.7/13~9/28.9/28~11/11の148日間採水 大学研究室で雨水分析委託  
 工場から500mほど離れた地点で、雨水に含まれる物質など(PH、EC、Na、K、NH<sub>4</sub>、Ca、Mg、Cl、NO<sub>3</sub>、SO<sub>4</sub>)の分析調査により、工場の排気ガスに含まれる物質と、周辺地域への降下実態の実証に取り組んだ。
- ・ 大気中NO<sub>2</sub>分析調査 11/30~12/10  
 昨年に引き続き、大気汚染測定運動東京連絡会のカプセル方式で日の出町と青梅市の15地点の広範囲でNO<sub>2</sub>を測定し、工場からの排気の影響分布の調査に取り組んだ。  
 <エコセメント工場からの排気が、風の流れにより高い数値が測定された地点をほぼ特定>

## 2) 広報交流活動

- ・ 4/18~19 アースデイ出展 代々木公園 来場者約150名
- ・ 4/30 八丈島処分場問題で、報道カメラマンを日の出処分場案内説明
- ・ 5/9 高木市民科学基金助成、成果発表会
- ・ 5/31 多摩地区住民、芝浦工大学生ら9名現地案内説明
- ・ 7/9 パタゴニア社員、一橋大学生19名現地案内説明
- ・ 9/27 高木市民科学基金 市民科学東日本交流会参加
- ・ 11/27 東京農工大学多羅尾ゼミ18名現地案内説明
- ・ 1/16~17 千葉県勝浦市鶴原地区 産業廃棄物処分場建設反対地区住民との交流会
- ・ 3/6 高木基金公開プレゼンテーション参加
- ・ 3/13 町田市ゴミゼロシンポジウム参加

### 3) 学習活動

- ・ 7 / 5 第 25 回市民環境問題講演会 参加者 32 名  
「子ども達の未来を守るために」  
- 生活の中のダイオキシン・環境ホルモン・化学物質 -  
講師 水野玲子さん (ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議)

### 4) 市民科学研究所設立への準備

会員の中西氏宅の敷地内に研究所の建屋が 3 月に完成し、現在内部資材と器具、組織運営方法、人的協力体制の準備検討中。

### 5) その他の活動

- ・ たまあじさいの会紹介用パンフレット作成作業中
- ・ 処分場、エコセメント裁判での準備書面等に調査データなどの提供

## 4. 調査研究・研修の成果

私たちの調査活動は、本来は事業者（東京都及び資源循環組合）が調査して、情報公開を行って住民に知らせるべきものである。ところが当方の調査活動の時に、年に何回か事業者が委託している、贈収賄等で度々メディアを賑わす調査会社（パシフィックコンサルタント）の調査活動と出くわすことがある。事業者は様々な調査を実施しており様々なデータを捉えていることが予測できる。しかし、この資源循環組合は「裁判で争っている敵に塩を与えるような情報公開条例は必要ない」と公然と述べる隠蔽体質を持ち、市民の情報公開条例制定の陳情を度々御用議会で否決している。そして、都合の良い一部の情報をマスコミや巨額費用の組合広報誌を通して情報操作を繰り返すのみである。裁判でも同様に全てのデータを開示することはない。

このような状況の中では、住民自ら調査活動を通してデータを蓄積する取り組が、大きな役割を果たしている。また、私たちの調査・監視活動は、事業者の操業とそれに伴う周辺環境への調査などにプレッシャーとなり、公害発生の抑止力となっていることも重要である。

- ・ 活動を分かりやすく紹介し、より多くの人たちに伝えるパンフレットの作成
- ・ 水野さんの環境問題講演会では、様々な有害物質が生活の中に溢れ環境の悪化と、その被害を多くの子どもたちが受けている実態と、その予防などについて地域の方々と学習できた。また、日本に多数あるゴミ焼却炉やゴミ埋立地が健康被害の大きな要因を占めていることも認識した。
- ・ 処分場現地で沢水の源流まで遡り浸出水の採水、測定とその解説、各地のゴミ処分場問題の学習を、多くの参加者と共に取り組むことができた。
- ・ 学生や市民、処分場反対の住民などの現地案内と説明、交流に取り組めた。
- ・ 効果的な調査活動の検討と実施、公害発生の抑止力となれた。

昨年夏ごろから、日の出町や青梅市を中心に日本で始めての、梅の「プラムボックスウイルス」による被害が、農林省や東京都の調査で確定し広報された。私たちが数年前にエコセメント工場からの大気汚染のシミュレーションを実施した範囲と梅の被害がほぼ地域的に一致している。また、この地域では数年前に野生の狸の「疥癬」が多発し、死亡している狸が多く見られたことも想起される。

1984年の谷戸沢ゴミ処分場の開設以来、二ツ塚処分場、エコセメント工場と長年に亘る環境汚染が動植物の免疫力の低下を招いているのではないかとその関連性を推察している。直接的な被害から、免疫力低下という生命体の根幹に係る範囲に及んでいることも考えられる。

## 5. 対外的な発表実績

- ・ 4 / 18 ~ 19 アースデイ出展 代々木公園 当会ブース来場者約 350 名
- ・ 6 / 26 「週間金曜日」鎌田慧氏を案内、痛憤の現場を歩く  
「東京・日の出町の巨大処分場問題」掲載
- ・ 2 / 28 NPO「VOC研究会」結成シンポジウムにて日の出の現状と問題点報告

## 6. 今後の展望

- ・日の出町ゴミ処分場問題は、過去の問題であり「安全安心」にゴミは処理されていると、事業者による情報操作は、とマスコミまで動員し無関心の人々を増大させている。地域や社会に問題提起をどのように行い、人々の関心を再度喚起するか。
- ・これまでの調査の累積データを平易に分かり易く、より多くの人たちに理解してもらえる広報の検討と取り組み
- ・梅ウイルスなどの免疫力低下に関する分野での調査への取り組み。
- ・都民の水源多摩川の汚染についての地域住民に対しての警告、警鐘
- ・様々な分野で新たな研究者の協力の確保。
- ・次世代の人たちへの問題提起と活動の伝達と継承への取り組み。
- ・市民科学研究所の設立体制の確立と活動開始。
- ・焼却、埋め立てのゴミ政策の見直し  
世界の大型ごみ焼却炉の約7割、1400余があるこの国の大気汚染は「微量・複合・長期」による蓄積で、若者の体と心に影響を及ぼしている実態の学習と広報

## 高木基金へのご意見

私たち「たまあじさいの会」はこれまで幾度となく貴基金の助成を頂いて活動を継続することができ、いくつかの問題を科学的に明らかにできましたことをまず感謝致します。

これまで一地域に公害問題が発生すると、まず当該地域の住民の反対運動が起こります。運動が勝つか負けるかで、何らかの決着がついてその地域では、やがて一過性の問題として沈静化します。

しかし、根本的な解決は先送りさせられて、また同様な問題が他の地域に起こります。日の出町のこのゴミ最終処分上の問題は、全国に先駆けておこりました。問題の根底は、住民も含めて行政と解決しなければならないものでした。今全国で同様な問題が、いよいよ各地で発生しています。

一住民の力は微力ですが、次世代のためにはなんとしても解決の方向を見つけ出す必要があります。そのためには各地の市民と協力して、この問題を科学的に正しく解決するために活動を続けていきたいと考えております。今後ともご支援をよろしくお願い致します。